

第24回 日本腰痛学会

The 24th Annual Meeting of the Japanese Society of Lumbar Spine Disorders

会期：2016年 9/2 (金)・3 (土)
(平成28年)

会場：甲府富士屋ホテル

会長：波呂 浩孝

山梨大学大学院総合研究部整形外科科学講座 教授

腰痛への集学的 アプローチ

プログラム・抄録集



第 24 回日本腰痛学会の開催にあたって



会長 波呂 浩孝

(山梨大学大学院総合研究部整形外科学講座 教授)

腰痛は厚生労働省の国民基礎調査によると本邦ではトップの有訴率であり、米国でも2位と高頻度の愁訴であります。90%の人類は、生涯一度は腰痛に悩むという報告があります。また、腰椎分離症や腰椎椎間板ヘルニアは学生や青少年に好発し、教育や労働を支える実働に支障を来すことから、社会生活や経済に多大な影響を及ぼします。一方、高齢化が顕著に進む本邦では、骨粗鬆症や成人脊柱変形により高齢者の日常生活に影響し、ひいては成人病の発症や健康寿命の短縮に直結します。さらに、消化器や血管病変、泌尿器、婦人科、精神疾患でも腰痛を発症することが知られています。それでは、腰痛に対する確な診断法や治療法がすでに確立されているかということ、まだまだ道半ばというのが現実です。これには、基礎研究を推進し真摯に病態や原因を解明し、これをトランスレーショナルに臨床応用して、新規検査法や診断法、治療法を確立することが急務といえます。そこで、基礎研究者や整形外科、リハビリテーション科、ペインクリニック科などの様々なバックグラウンドの医師が参加し、また、看護師やリハビリテーションに関わる業種が一同に介し、集学的に腰痛を議論することが必要と考えます。そこで、本学会のテーマを“腰痛への集学的アプローチ”とさせていただきます。

シンポジウムは3テーマとし計15演題、スポンサーセミナーは16演題を企画しました。また、主題は6テーマとし計62演題、このほか一般演題として187題の計280題となりました。また、9月2日のポスター会場では、参加証に付属している投票券を使って、17時までには最も優れたポスターに投票してください。結果は、全員懇親会において優秀ポスター賞2題を発表し、表彰いたします。

伝統ある日本腰痛学会の運営を山梨大学整形外科学講座が甲府市で担当させていただくことは存外の喜びであります。多くの演題に多くの参加者が集まって、難解な腰痛に対して集学的に検討していただき、腰痛に対する新たな活路を導ける学会にしたいと思っております。本学会が成功しますように、皆様方の多大なるご支援を賜りますようお願い申し上げます。